



湾岸・アラビア半島地域ニュース

UAE：米およびイランとの関係をめぐるアブダビ・ドバイの対立 (8月17日付 IHT 紙)

1. アブダビとドバイは、前者が世界的な美術館を建てれば、後者が高層ビルをのぼすというように数十年にわたるライバルであった。しかし、両者が中東で最も活気に満ちた都市に変貌を遂げた健全な競争の一方で、両者はイラン及び米国との関係を巡りますます分裂を強めており、気まずくなっている。
2. UAE は、米国とのテロとの闘いにおいて忠実な同盟者であり、米国はアブダビ郊外の空軍基地の使用を許され、ドバイ港には定期的に軍艦が停泊している。
3. しかし、年間 140 億ドルにのぼるイランの対ドバイ投資がほとんどを外資に頼った粗っぽい開発計画を進める中、貿易面からも、イランは西欧の制裁を乗り越えられるとの自信を深めている。
4. 昨年、ブッシュ政権は、ある企業が、イラク、アフガニスタンで米兵を殺害している爆発装置の製造にかかわる部品・設備をイランへ密輸している疑いがあるとして、この企業を閉鎖するようアブダビに求めると同時に、ドバイで活動するイランのフロント・カンパニーに対し懸念を表明した。
5. 数日後 UAE 大統領は、輸出入・通過を禁止する法律を発表し、いくつかの企業を閉鎖したが、法律がどの程度実施されているかは不明である。デビッドソン・ダーラム大学教授は、ドバイがイランとの貿易をこれまでと同様に続けていることがアブダビと米国との関係を麻痺させているという。
6. 同教授によると、イスラム国にあってアルコール規制等のルールを回避することで西欧人居住者・旅行者を受けているドバイのやり方は連邦の重荷になっている。セズネック・米ジョージタウン大学教授は、ドバイがイランにとって主要な輸送ハブではなくなることを、アブダビは実のところ欲していない可能性もあると述べた。